【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(四日市高校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		○「知識と基盤となる高い学力とともに、前向きな姿勢や他者と協働しながら新しい価値を生み出す力をはぐくみ、新しい時代を各分野でリードする人材を育成する学校」 ○校是「偏く険しく、光輝く八稜星のごとく」
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	社会をリードできる人材として、身に付けたい資質能力 (1)自主・自立の精神(自律した学習者への転換) (2)前向きな姿勢(SSH や部活動など、多様な活動への参加、成功と失敗の体験) (挑戦心、意欲、しなやかさ、骨太さ) (3)広い視野と創造性(グローバル・マインドとシチズンシップ、多様性の受容) (協働しながら新たな価値を生み出す力) (独創性、調整力)
	ありたい教職員の姿	○社会のリーダーを育成するリーディングスクールとしての使命感を持っている教職員 ○互いに支え合い、研鑽しながら「教科指導力」と「人間育成力」を高め合う教職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 学力の向上、進路保障、SSHや部活動、特別活動の充実、同窓と交友を深め安心して過ごせる学校。</p> <p><保護者> 教員の学習指導力、進路指導力。生徒の人間関係力の育成。安全で安心な学級、学校。</p> <p><地域> リーダーとして社会や地域を牽引する人材の育成。リーディングハイスクールとしての進学実績。豊かな心・人格の形成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><地域社会> 学力と人間力を兼ね備えた人材の育成 地域とのパートナーシップ</p> <p><中学校> 四日市高校教員としての指導力 生徒の希望進路の実現</p>	<p><地域社会> 自治体や地域の企業、団体等の教育力の活用 地域人材の教育力の活用(外部指導等)</p> <p><大学・研究機関> 高いレベルの探究力を育成するための講義等の協力(SSH事業・大学出前授業等)</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>	<p>○ 文部科学省のSSH事業の指定を受け、生徒一人ひとりが異なる研究テーマを定め、科学の探究に取り組んでいる。この「一人 1 テーマ」のSSHが、四日市高等学校の著しい特徴といえる。SSH事業は、今年度から新たに第3期事業へと移行した。第2期以前の実績を引き継ぎ、確立した研究支援体制を用いて、生徒へのきめの細かい指導・助言に基づく探究の場が提供できた。</p> <p>今年度のSSH事業では、従前の大学等の高等教育機関との連携に加えて、新たにグローバル展開する地元企業との連携が試みられた。そのことで、科学教育・キャリア教育に対するグローバルな要素に加えて、地元企業からのローカルな視点を盛り込むことに成功した。本校では中京地区や首都圏、あるいは海外に憧れて進路を選択する生徒が多いが、その一方で地元三重を愛し、将来の三重を牽引していく人材が本校から育てほしいと切に願う。そのためにも、このような四日市高等学校の「グローバル」な教育は今後大いに期待できる。</p> <p>なお、地元企業の協力を得て半導体の研究を行った生徒グループは、日経ストックリーグで中学生・高校生・大学生を代表する最優秀賞を受賞するなど、著しい成果を挙げた。本研究は、元々は「一人 1 テーマ」に基づく個人研究として個々に半導体に関する研究を行っていたが、それらを繋ぎ、補完しあう形で共同研究として成就させたものである。これ以外にも、「個人研究から共同研究への昇華」が企図され、成功を収めたものが多々ある。これらは、今後のSSH事業のあり方に大きな示唆を与えるものとなったので、その成果を次年度以降にも活かしていただきたい。</p> <p>加えて、VUCAを生き抜く人材として、次年度には「AIの活用」に関する研究テーマに取り組む生徒が表れ、全国に先駆けた高校生による「AIの研究」がなされることを期待したい。</p> <p>○ 学習指導では、従前の生徒の学びを管理することを脱し、自律した学びに向かわせることがめざされ、今年度は「主体的な学び」を実現するための先進的な取り組みがなされた。その成果が表れ、多数の生徒が第一希望の進路を実現できている。また、生徒の一人一台端末を活用し、個に応じた学習課題を設定するとともに、習熟度別講座編成もあわせて「個別最適な学び」の実現がめざされ、生徒・教員のICTの活用も著しく進んだ。一方、学習不安を抱える生徒、長期欠席となる生徒が一定数在籍し、引き続き支援が必要となっている。</p> <p>○ 施設の老朽化が進んでいる。設置者である三重県には施設改修のための予算措置を求めたい。なお、猛暑となった今年度は部活動を制限するなどの対応を行ったが、近年の気候変動を踏まえ、健康を守り、生徒の快適な活動環境を担保するため、エアコンを改修することが望ましい。特に、部活動で使用する体育館や武道場のエアコン設置を望みたい。</p> <p>○ 働き方改革に対して、今年度は前年度に引き続き、掲げた成果指標のうち多くのものが達成できていない。教員の強い使命感からくる過重労働が慢性化している。業務内容の削減や見直しに引き続き取り組む必要がある。過重労働の主因である進学指導や生徒指導、部活動は教員のやりがいを損ねることなく、ICTを活用するなど効率化を図り、削減することが望ましい。</p>
	<p>(4) 現状と課題</p>

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動 【カリキュラム・ポリシー】</p>	<p>○スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業の成果を継承しながら、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業第Ⅲ期(令和5～9年度)等を活用し、自律した学習者、新たな価値を創造し国際舞台で活躍する科学技術人材を育成するとともに、すべての教育活動を通して人間力を育成し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む学校としての役割を果たします。</p> <p>○生徒が学力を高めることができる指導を充実するために、教職員は、授業第一の姿勢、科学的論理的思考力育成、グローバル教育を意識しながら、探究的で、主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を実践するとともに、ICTの活用など授業の改善に努めます。また、授業時間の確保を進め、学力の伸長に努めます。</p> <p>○授業、部活動、学校行事など、すべての教育活動を通して「人間力」を育成するとともに、生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、同時に市民性・社会性(シチズンシップ)を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で交流する温かい組織風土を培います。</p>
<p>学校運営等</p>	<p>○生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上や、いじめ、不登校の未然防止や早期の対応を図り、生徒が、ここで学んでよかったと思う学校、学級集団づくりを進めます。</p> <p>○教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。また、働き方改革に取り組み、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。</p>

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】</p>	<p>本校は、「新しい時代を各分野でリードする人材を育成する学校」を使命と考えて、「高い学力」、「前向きな姿勢」、「他者と協働しながら新しい価値を生み出す力」をはぐくむことを目標としています。これらの資質を育むために、高度な学習やSSHや部活動など、学校内外のあらゆる活動に積極的に取り組み、仲間とともに物事を成し遂げる喜びや、失敗から学び、それを乗り越える経験が必要となります。このことから、本校では以下のような生徒を求めています。</p> <p>○夢や希望の実現に向けて、主体的に、学習や学校内外のさまざまな活動に取り組もうとする意欲のある生徒</p> <p>○自分自身や社会が直面する課題の解決に向けて努力しようとする、挑戦心や探究心を持つ生徒</p> <p>○異文化や、他者の考え方を認め尊重したうえで、そこから何かを見つけだそうとする姿勢を持つ生徒</p>
---	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
SSH 事業における人材育成	<p>1 生徒の創造的・論理的・協働的な思考力や判断力を育成するために、学校設定科目「探究」において課題研究を実施します。一人1テーマでの発表は継承しつつ、昨年度、関連するテーマでチームを作り、協働の観点も取り入れたことによる探究活動においては、科学の甲子園全国大会、再生医療学会、ストックリーグ等多くの成果をもたらし、引き続き実施していきます。また、テーマ決定・研究の実践・論文作成におけるさまざまな学習場面では、個別に指導・助言を行い、生徒同士での学びの場を設定します。</p> <p>【活動指標】探究Ⅱにおいて、関連するテーマでの協働的な取組み、年5グループ以上実施。</p> <p>【成果指標】生徒アンケートにおける思考力向上の実感度 80%以上</p> <p>2 生徒の国際感覚や多角的な視野、表現力を向上させるために、オーストラリア語学研修、英語開発プログラム、白熱英語講座、東大金曜講座、海外研修、国内研修等、さまざまな課外活動を実施します。</p> <p>【成果指標】課外活動の満足度 90%以上</p> <p>3 生徒各自の探究活動に加え、大学の他、地元グローバル企業等外部機関との連携を深め、それらの成果を発表し、SSH 事業の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地元グローバル企業との連携、年3社以上実施。</p> <p>② 研究発表会や学会等での成果発表、年10回以上実施。</p>	<p>1 【活動指標】</p> <p>探究Ⅱにおける協働的な取組は、全体ではなく各講座で5グループ以上実施できた。また、チームでの発表は、現在、科学の甲子園や海ほす甲子園での成果が見られ、特に海ほす甲子園は全国大会に出場した。また、3月に日本再生医療学会、日本農芸化学会にて発表予定である。</p> <p>【成果指標】</p> <p>思考力向上の実感度86.5%</p> <p>2 【成果指標】</p> <p>左記の内容のうち、特に海外研修では、ハワイで実施することができた。</p> <p>満足度 97.5%</p> <p>3 【活動指標】</p> <p>① 企業との連携として、今年度は東亜合成株式会社に訪問させていただき、生徒の探究活動を実施した。また、科学の祭典では、9社の企業ブースを設けることができた。</p> <p>昨年度企業ブースを設置していただいた企業を中心に「四日市高校サポーターズクラブ」を設置し、現在地元企業を中心に10社にご登録いただいている。</p> <p>② 成果発表8件(2/13現在)、3月に5件予定。</p>	

	<p>4 理系女子育成に力を入れて努めます。 【活動指標】理系女子育成の取組、年1回以上実施。</p>	<p>4 【活動指標】 つくば国内研修、ハワイ海外研修、東大農学部訪問において、いずれも女性研究員からのアドバイスを受けた。</p>	
<p>学習指導力向上</p>	<p>1 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施する。「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別の評価をもとに改善することにより、授業の質の向上を図ります。 【活動指標】授業改善アンケート年2回実施 【成果指標】視点別12項目平均点3以上(満点4点)</p>	<p>1 【活動指標】 授業アンケート(6・12月)実施 【成果指標】 視点別12項目平均3.5点</p>	
<p>授業の充実及び 学力向上</p>	<p>2 習熟度講座、少人数講座等の展開や、ICT・1人1台学習端末を有効活用した授業を実施することで、学習内容の理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。また、定期試験、実力試験、実力養成試験を実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。 【活動指標】各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、1人1台学習端末の活用研究、各学年の学力検討会議を年10回以上実施</p>	<p>2 【活動指標】 ・2年生で国語(古典)、3年生で数学(普通科・数学Ⅲ)の習熟度講座を展開している。アンケートで高い満足度が得られている。 ・ロイロノート(学校一括導入の授業用アプリ)の今年度のDAUが教員30、生徒819(R5:教員22、生徒621)となり、1人1台端末の活用が進んだ。 ・各試験を実施。確認試験は各教科・科目で適宜実施した。 ・「遠隔授業」による学習支援を開始。</p> <p>1 学年:学力検討会議13回 2 学年:学力検討会議13回 3 学年:学力検討会議11回 各種試験や模試の結果および学習時間等を分析し、教科・学年の指導における方向性を検討した。</p>	
<p>授業時間の確保</p>	<p>3 授業時間を確保するため、年間を通して授業実施時間を調整するとともに、自習時間は時間割変更して対応します。 【成果指標】自習時間数ゼロ</p>	<p>3 【成果指標】 曜日や時限によって授業時数が不均衡にならないように計画的に実施をしている。 自習時間は9時間(R5:17時間、R4:16時間、R3:1時間)</p>	
<p>学級経営</p>	<p>1 アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的で自律した学級集団の育成に取り組みます。 【活動指標】個人面談年間3回以上</p>	<p>1 【活動指標】 1 学年:個人面談年間4回 2 学年:個人面談年間4回 3 学年:個人面談年間4回</p>	

人権教育	<p>2 人権教育推進計画を基盤にし、日々の授業や学校生活で実践を行います。また、人権学習を実施し、人権に対する意識を更に高めます。</p> <p>【活動指標】人権教育の観点を取り入れた授業、人権講話・人権学習の実施、各クラスの人権委員長・人権委員を主体にしたピンクシャツ運動など、主体的な人権啓発活動を行います。</p>	<p>2 【活動指標】 人権講演会後のアンケートでは「今後の自分の在り方や生き方のヒントや参考になった」という項目で「とてもそう思う・多少そう思う」と答えた生徒が92.1%であり、人権LHRやピンクシャツ運動等の人権啓発活動においては、人権委員が主体的に取り組み、1年間を通して学校全体の人権意識の高揚につなげることができた。</p>	
生徒支援	<p>3 ルールにただ従うことを是とするのではなく、ルールの目的や妥当性について生徒自身が考えるように促すことで、適切な社会性を身につけるとともに、自分の価値観や生き方を発見できるよう支援します。</p> <p>【活動指標】ルールや生き方について考える機会となる講話や生徒支援だよりの発行を合わせて年間5回以上実施。</p> <p>4 学校を安全・安心な場所とするため、生徒が主体的に集団に参画できるようなコミュニケーション能力向上や、環境美化の意識向上を促していきます。</p> <p>【活動指標】生徒を主体とした挨拶推進運動年4回以上実施、教職員の当番制による登校安全指導年間20日以上実施。</p>	<p>3 【活動指標】 全校集会や学年集会での講話と生徒支援だよりの発行を計画通りに行い、生徒自身が考える機会を提供できた。</p> <p>4 【活動指標】 生徒会が中心となり挨拶推進運動を行った。教職員による登校安全指導は教員ひとりあたりの当番数を減らしながら、20日以上行った。</p>	
読書推進	<p>5 読書活動を推進することにより、生徒が視野を広げ、思考力・表現力を高められるよう支援します。また、「探究」など生徒のさまざまな学習活動に関連し、幅広い資料提供に努めます。</p> <p>【活動指標】読書活動推進のための情報発信回数:12回以上</p>	<p>5 【活動指標】 本校生徒の学習や進路選択を意識した選書に努め、資料提供を行った。また教員との情報共有を図り、学習活動の広がりにつながるよう留意するとともに、関連する企画展示を行い、生徒の知識・関心に沿った情報提供に努めた。情報発信回数:13回</p>	

改善課題

(SSH)昨年度までの課題としては、文系生徒の取組、および理系女子育成であった。そこで今年度は、まず文系生徒の取組について、探究ⅡL(文系)講座にSSH探究推進部の教員を加え、京都大学での成果発表会や海ほす甲子園全国大会など活躍の場を広げ、みえ探究フォーラムでも5件中2件が本校の代表として発表した。しかし、理系女子育成については、もともと本校には理系女子が多い中で、さらに増やすためには、文理選択前の1年生に新たな企画や魅力を提示する必要がある。

(教務)1人1台の学習端末導入から3年が経過し、生徒・教員ともに学習端末の利用率は年々増加しています。学習端末の利用により多くの利便性がもたらされましたが、今後は『学習端末を使ってみる』段階から、教育効果を考慮した『学習端末の活用』を進めていきたいと考えています。

(1年)小テストをGoogle Formsで行うなど、学習活動でのICT活用の推進に取り組んできた。しかし、ICT活用の方がアナログに比べて本当に学習効果が高いのか、検証する必要がある。

(2年)主体的な学習を掲げて、生徒が自律的に学習することを促してきた。一定の成果はあるものの、計画的に学習をする生徒が少ないため、先を見通して学習に取り組ませたい。また、学習について高い目標を持

って取り組む生徒が少なくなってきた。

(3年生)新課程共通テスト初年度を終え、「情報」の追加、学習内容・試験時間の増加など懸念点もあったが概ね生徒は自分の実力を発揮できた。来年度に向けて各教科や学年での取り組み・課題の共有を図っていきたい。「主体的な学習」を促して3年間取り組んだが、「主体性とは何か」ということについて考えさせる時間やメッセージの発信なども必要だと考える。

(人権) 外国人、子ども、女性の人権に係る問題、社会の動向等により新たに生じる人権問題など、多様な人権問題をどのように学習に取り入れていくか、今後考えていく必要がある。

(生徒支援)引き続き、挨拶や身だしなみなどのマナーの向上に努めたい。また校則や学校生活のあり方を考えさせることで、生徒が主体的に学校運営に参加できる雰囲気を醸成したい。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
現状把握と組織改善	<p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況を確認し、学習指導の品質を整え、充実を図ります。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握することで、生徒の学力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】 教科会を教科ごとに10回以上実施し、進捗状況を確認。全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供。課題の質、量と学力向上の相関性について分析。</p>	<p>1 【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間4度(6月・9月・11月・1月)の進路検討会議を行い、組織的に、生徒の学力、適性にあった進路を実現のための協議を行った。 ・各教科・科目でシラバスを作成し、情報共有を行っている。 ・年2回の授業公開日には、指導力向上につなげるため、他の教員の授業に参加するように努めている。 	
教育相談	<p>2 生徒一人ひとりの心身の不調の早期発見に努め、担任・学年団や、必要に応じて関係機関と連携して、生徒の心のケアに努めます。</p> <p>【活動指標】 生徒の心身の健康の保持増進に関する個別対応の充実、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年によるケース会議(※注)の実施。</p> <p>(※注)ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議</p> <p>【成果指標】 長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ</p>	<p>2 【活動指標】</p> <p>カウンセリングの充実(昨年度より41時間増)</p> <p>実人数:生徒17人 保護者14人 実施回数:生徒82回 保護者33回</p> <p>発達障がい支援員の来校(3回)、ケース会議(3回)実施し、いずれも昨年度より増加。早期対応を心掛けた。</p> <p>【成果指標】</p> <p>長期欠席生徒数は前年度並み、いじめ認知6件、体罰0件</p>	

<p>情報共有</p>	<p>3 保護者、生徒の希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。 【活動指標】 保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施</p> <p>4 保護者や地域へ学校生活の情報発信を積極的にすすめます。 【活動指標】 学校Webサイト(ホームページ)の充実やICTを利用した情報伝達を行う。すぐーるの有効活用を行う。</p> <p>5 PTAの支援のもと、土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に応じた指導を実践します。 【活動指標】土曜学習会および課外授業の実施 【成果指標】3学年11月時点での第1志望校への出願率70%以上</p>	<p>3 【活動指標】 1学年:保護者面談1回、個人面談4回 2学年:保護者面談1回、個別面談4回 1・2学年合同保護者会(9月) 3学年:進路検討会議4回 保護者面談2回 3学年合同保護者会(6月) 保護者対象には、学年ごとに合同保護者会を開催し、保護者に最新の進路情報を届け、受験への支援と理解を求めた。</p> <p>4 【活動指標】 Webサイト上では行事毎にすぐ情報を発信し、保護者、生徒宛てには、すぐーるを活用し、緊急の情報を発信することができた。</p> <p>5 【活動指標】 <u>土曜学習会</u> 各学年で計画通りに実施 1学年 1,303人、2学年 421人、 3学年125人 <u>平日課外</u> 2学年 I期 9講座 299人、 II期 10講座 307人 3学年 I期 11講座193人 II期 11講座270人 IV期 13講座233人 <u>夏期課外</u> 1学年 12講座 907人 2学年 14講座 329人 3学年 37講座1,386人 【成果指標】 3学年11月時点での第1志望校への出願率78%</p>	
<p>組織活性化</p>	<p>1 進路主任を座長とする「戦略会議」(校長直轄)を定期的に行き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。 【活動指標】 年間10回以上実施 【成果指標】 生徒一人ひとりが学年始めより学年終了時実施の同種の校外模試等において成績向上</p>	<p>1 【活動指標】 年間10回以上実施。 【成果指標】 校外模試の結果や、共通テストの結果も良好で、成果が出ている。</p>	

<p>組織運営</p> <p>不祥事根絶</p> <p>情報発信</p>	<p>2 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報、試験をもとに企画委員会や各種委員会を定期的に開催し情報共有を図るとともに、分掌ごとの役割分担や部活動の在り方等を含め、継続した学校経営改善に取り組みます。 【活動指標】随時の情報交換や中間評価を実施し、改善点等を明確にする</p> <p>3 「学校信頼向上委員会」を設置し、学校の直面する課題を明らかにし、改善に向けた取組を進めます。また PTA 役員等の意見も取り入れ、「行動計画」に反映します。 【活動指標】委員会実施回数 年間4回(4月・8月・10月・2月)</p> <p>4 学校Webサイト(ホームページ)の更新 【活動指標】更新回数 100回 5 外部への発信 【活動指標】報道への情報提供 年間10回以上</p>	<p>2 【活動指標】 昨年度実施した、教育効果と負担感等についての職員アンケートを活用し、早急に改善できる取組について検証し、結果を企画委員会および職員会議で共有した。</p> <p>3 【活動指標】 委員会2回(4/28,2/7) 研修内容の検討が不要となり、予定されていた会議を2回割愛</p> <p>4 【活動指標】 頻繁に更新を行い、更新回数105回 5 【活動指標】 報道への情報提供12回</p>	
<p>働き方改革</p>	<p>1 働き方改革に取り組み、昨年度実施したアンケート等をもとに業務の精選・重点化を図るとともに、教職員が相互に協力し、助け合う学校組織文化を醸成します。 【活動指標】 ・定時退校日を月1日以上実施。定時退校できる職員の割合85% ・部活動休養日を週1日以上設定。予定通り休養日を設定し実施した部活動の割合100% ・放課後開催の会議時間を短縮し60分以内に終了する会議の割合85% 【成果指標】 ・1人当たり月平均時間外労働時間30時間以下 ・1人当たり年間休暇所得日数19日以上 ・年360時間を超える時間外労働者0人 ・月45時間を超える時間外労働者延べ人数0人</p>	<p>1 【活動指標】 12月末現在(昨年度値) ・定時退校日及び定時退校期間を月1回設定し、定時退校した職員 91.4(92.6)% ・部活動休養日を週1日以上設定し実施した部活動100(100)% ・放課後に実施した企画委員会以外の会議で60分以内に終了した会議 93.8(81.0)% 【成果指標】12月末現在(昨年度値) ・月平均時間外労働時間 31.3(32.4)時間 ・年間休暇取得日数 17(16)日 ・年360時間超の人数 20(25)人 ・月45時間超のべ人数 130(157)人</p>	
改善課題			
<p>(教育相談)保健室における相談では、状況に応じて談話室、教育相談室をうまく活用し、SC等の専門性を持った外部人材も活用しながら、生徒が抱える課題の把握と支援をさらに進める。 (総務)すぐーるで送信する情報内容の精選や、送信先の絞り込みが課題である。 (教頭)働き方改革について、活動・成果指標7つのうち6指標が昨年度に比べて改善・維持されたが、成果指標の4つはいずれも達成できなかった。</p>			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○四日市高等学校の SSH 事業では、生徒は一人1テーマに取り組む。さらに、その上で個々の研究を繋ぎチームを形成し、協同的な探究を深めるという手法を取っている。バラエティに富んだ個人研究の実践と、それを共同研究へと昇華させること、それが四高 SSH の著しい特徴となっている。その結果、R6 年度は、「科学の甲子園」での活躍や、「海ほす甲子園」の全国大会出場など、顕著な成果を挙げている。また、日本再生医療学会、日本農芸化学会をはじめとする最先端の学術研究の場で発表を行った。思考力向上の実感度 86.5%という成果指標(目標 80%を達成)が示す通り、良好な結果を得ている。また、多彩な外国語教育プログラムに加え、ハワイでの海外研修も実施し、グローバル人材の育成が目指されている。海外研修の満足度 97.5%(目標 90%を大きく達成)と、極めて良好な結果を得ている。また、大学等の高等教育機関やグローバル展開する地元企業との連携も精力的に行うことで、四日市高校に期待される科学教育・キャリア教育に対する“グローバル”な実践を展開できた。本年度、先生方には、生徒に丁寧な指導・助言を与え、研究を情熱的にサポートしていただいた。次年度は第 III 期(R5~R9 年度)の中間年に当たる。R7 年度は、R6 年度の成果を確実に引継ぎ、SSH 事業のますますの充実と発展に努められたい。</p> <p>○学習指導では、年2回、授業アンケートを実施、それに基づく授業改善に尽力した。具体的には、視点別12項目のアンケート(満点4)で平均3以上という目標に対し、3.5という評価が得られ、目標が達成できた。学習指導の PDCA サイクルが良好に働いている。生徒、教員の ICT の活用も著しく進んだ。人権教育においても、「自分の在り方や生き方のヒントが得られた」と思う生徒が 92.1%である。これには、生徒が主体的に取り組む人権学習の成果が表れている。しかし一方で、学習不安を抱える生徒、長期欠席となる生徒が一定数在籍し、引き続き支援が必要となっている。</p> <p>○学級経営や進路指導、教育相談、生徒支援、保護者連携において、きめ細やかな取り組みが行われている。四高の“生徒第一主義に基づく、学力の涵養と人間力の育成”に今後も期待したい。</p> <p>○働き方改革に対しては、令和 6 年度も過年度に引き続き、掲げた成果指標のうち多くが達成できていない。先生方の強い使命感からくる過重労働が慢性化している。業務内容の削減や見直しに引き続き取り組む必要がある。過重労働の主因は進学指導や生徒指導、部活動であることは分かっている。これらは教育活動の根幹となるものだから容易ではないが、先生方のやりがいを損ねることなく効率化を図り、削減することが望ましい</p>
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○社会をリードできる人材として、身に付けたい資質能力を学校全体で共有し、これまで以上に学年系統的・教科横断的な教育活動を確立し、「高い学力」、「前向きな姿勢」、「他者と協働しながら新しい価値を生み出す力」を育成する。</p> <p>○SSH事業について、大学等の高等教育機関だけでなく、「四日市高校サポーターズクラブ」を中心とした地元企業や研究者との連携を推進し、「一人1テーマ」の探究活動を深化させるとともに、地元企業の魅力発見や帰属意識の醸成につなげる。</p> <p>○卒業後も自律した学習者として学び続けることのできる資質・能力を育成し、何事にも前向きに取り組む姿勢をはぐくみ、広い視野と創造性をもって社会で活躍できる人材を育成できる学習指導を実践する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○多様で複雑化する生徒が抱える悩みや課題について、学年・保健部・生徒支援部・教務部を中心に、早期発見・早期対応、情報共有し、「遠隔授業」などの対応ができる職場環境を構築する。</p> <p>○働き方改革について、今後も業務の効率化や削減に向けた具体的な対策の検討に取り組む。</p>